

仙台仏教青年会「立ち上がれ自分」報告より・・・被災者が被災者のためにBOP(仏青お風呂プロジェクト)

5月5日、こどもの日。東松島市、野蒜海岸の奥にある宮戸島に行ってきました。ここは島といっても4つの集落からなる陸続きの島ですが、東松島の中心部とを結ぶ唯一の橋が津波によって落ち、震災後数日は孤立状態であったそうです。その後自衛隊のヘリが入るようになり、道路も何とか未舗装ながら復旧、橋も仮の橋がかかっていました。といっても現地までは対向車とすれ違えないようなとても厳しい道のりでしたが。



この日の活動は避難所である奥松島縄文村での炊き出しと、月浜地区の民宿、かみの屋さんでのBOPという2班体制でした。縄文村での炊き出し、本日のメニューは餃子と麻婆豆腐というチャイニーズスタイル。徐々に炊き出しのメニューもバリエーションが増えてきたなどと妙な点で関心したものです。おいしく召し上がってもらえたかなあ。食後は衣料を中心とした無料バザーと念珠作り教室。バザーではズボンの需要が多かったような気がします。念珠づくりも子どもから高齢者の方々まで老若男女入り混じって珠が不足するぐらいの大盛況でした。合間には子どもたちと一緒にバレーをしたり、ゲームをしたり。みんなの笑顔が、確実に私たちの原動力です。



ゲームをしたり。みんなの笑顔が、確実に私たちの原動力です。

一方BOP隊は他教

区の方々の応援を借りながら、恒例の出張風呂に加え、現地で要望のあった常設風呂の建設に早速着手。前日の活動で大まかな基礎を作り、5日午後にはコンパネ、角材で屋根つきの常設風呂を完成させました。しかもシャワー付き！テントでの出張風呂のほうもご年配の方を中心に利用してもらい、みなさんの爽快感のある表情がとても印象的でした。最後には月浜の海岸から集めた流木をつかって「B」「O」「P」の看板作り。子供たちにも思いのイラストを描いてもらってこんなににぎやかな外観になりました。



東松島、特に奥松島地区の状況は、同じ被災地でも私の住んでいる岩手県南、

気仙地区や気仙沼より厳しいと思います。道路網も未整備ですし、壊滅的な被害の野蒜海岸付近はほぼ瓦礫が手つかずの状態でした。その中でも宮戸島の方々からは「家族」感というか、漁村独特の一体感をもものすごく感じました。このご縁をきっかけに長いスパンでおつきあいできたら、と思った、こどもの日でした。

